



CanApple ニュース (181)

カーボン・エネルギーコントロール社会協議会 (CanApple)

事務局：民秋均
発行責任者：井上晴夫
編集責任者：八木政行

「人工光合成」と出会って

大阪府立大学 深津 亜里紗

最近は人工光合成の研究とはご無沙汰気味で大変心苦しいのですが、学生時代のご縁で今回執筆の機会をいただきました。この度はこのような機会をいただき誠に感謝申し上げます。折角の機会ですので、学生時代に大変お世話になった CanApple を始めとした「人工光合成ネットワーク」の思い出を述べたいと思います。

「人工光合成」との出会いは 2012 年 1 月に行われた、第 1 回「フォーラム：人工光合成」でした。当時、学部 3 年生だった私は「最先端の研究をするには米国に行かないといけない」との思い込みから米国の大学院への進学を考えていました。そのような中、Twitter で偶然見つけたのがこのフォーラムでした。研究や学会というものを全く知らない一介の学部生がよく申し込んだなど今となっては思いますが、「人工光合成ネットワーク」の広く開かれた雰囲気を感じたのでしょうか、「人工光合成」という言葉に惹かれて何の躊躇もなく参加登録したのをよく覚えています。フォーラムでは、次々に展開される興味深いご講演にすっかり魅了されてしまいました。そして、ご講演を聴いているうちに、「こんなに面白い研究領域やコミュニティがあるなら、是非日本で研究したい」と感じ、大学院留学をせずに日本国内に留まることに心を決めたのでした。

その後、縁あって当時分子科学研究所で研究グループを立ち上げて間もない正岡重行先生（現 大阪大学教授）の下で大学院生としてお世話になることになりました。大学院生時代は光照射下での溶存分子の電気化学挙動に関する研究を行い、大変有り難いことに、淡路夢舞台で行われた 2014 International Conference on Artificial Photosynthesis (ICARP2014)においてポスター賞をいただき、さらにその副賞として、約半年後にスウェーデンのウプサラで行わ

れた 1st International Solar Fuels Conference 2015 (ISF-1)へ参加させていただきました。プレイベントの ISF-1 Young という若手研究会も含め、各国から集まった多くの研究者・学生の方々と交流する大変貴重な機会となりました。

それ以降も、CO₂還元触媒の研究で世界的に著名なパリ第 7 大学（現 パリ大学）の Marc Robert 教授の研究室へ留学させていただいたり、ICARP やフォーラム人工光合成などの学会やフォーラムに何度も参加させていただいたり、思い出には枚挙にいとまがありませんが、様々な学会やフォーラム、多くの先生方や学生の皆様との交流を通し、まさに「人工光合成ネットワーク」の中で育てていただいたと言っても過言ではありません。今思い返すと、様々な研究バックグラウンドを持ちながらも「人工光合成」という同じ目標に向かって研究を進める多くの先生方や学生の皆様と交流する機会に、学生のうちに恵まれたのは本当に幸運であったと感じています。そして、そのネットワークや各研究グループの研究が年を追うごとに発展していく過程を身近に感じられたのは何にも代えがたい経験でありました。このようなネットワークに出会うきっかけを与えていただいた第 1 回「フォーラム：人工光合成」の関係者の皆様を始め、CanApple の先生方・関係者の皆様はこの場を借りて深く御礼申し上げます。

「人工光合成」との出会いから約 9 年。私事で大変恐縮でございますが、縁あってこの 4 月から大阪府立大学にテニュアトラック助教として着任することになり、研究者として新たな一步を踏み出すことになりました。「人工光合成」とは少し異なるフィールドではありますが、同じ研究グループの高橋雅英教授・岡田健司准教授とともに、構造制御された有機-無機ハイブリッド材料の開拓と機能性の創出に携わる予定です。これまでの経験を胸に、新たな「ネットワーク」を開拓していく所存ですので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。